

(電子メール施行)
農 技 第 1034 号
令和 6 年 4 月 12 日

関係各位

兵庫県病害虫防除所長

令和 6 年度病害虫発生予察防除情報第 2 号を発表します。

たまねぎほ場で、細菌性病害（腐敗病）の発生を確認しています。今後、さらに発病の増加が懸念されますので、ほ場での発生状況を定期的に観察し、「罹病株の抜き取り」と「薬剤防除」を徹底するようご指導願います。

令和 6 年度病害虫発生予察防除情報第 2 号 タマネギ細菌性病害の防除対策について

- | | |
|--------------|----------------|
| 1 対象作物 | たまねぎ |
| 2 病害虫名 | タマネギ細菌性病害（腐敗病） |
| 3 発生地域 | 淡路地域 |
| 4 本年の気象と生育状況 | |

今期の気候は例年になく暖冬であり、12 月以降、2 月中旬まで気温は平年を上回る状況で推移していた（図 1）。降水量は、1 月下旬まで少雨傾向であったが、2 月以降増加し、降水量の平年値に対する比は 2 月：154%、3 月：148%であった（図 2）。このような気象を受け、比較的早い時期に定植されたたまねぎは高温と多雨により旺盛な生育を示している（写真 1）。また、年を明けてから定植されたたまねぎは 2 月以降の曇雨天の影響を大きく受け、軟弱・徒長気味に生育している（写真 2）。

5 今後の予想

今後の天候は、向こう 1 ヶ月の近畿地方の気象予報（4 月 11 日発表）によると、気温は高く、降水量は多いとされ、本病の発生に好適な条件になることが予想され、発病が増加する可能性がある。

6 本病の被害と発生生態について

- （1）本病は細菌による病害であり、3～4 月にかけて多数の暗緑色水浸状小斑点が葉身に発生し、のちに拡大融合して不定形となる。
- （2）病斑は淡黄緑色から淡褐色になると同時に葉脈に沿って上下に進展し、葉鞘基部に到達すると鱗茎が軟化腐敗する（写真 3）。また、本病は貯蔵期間中に鱗茎の腐敗症状を引き起こす。
- （3）病原細菌の一部はレタス、はくさい等も侵す多犯性である。

7 防除対策について

- （1）伝染源となる罹病株を早期に抜き取り、ほ場外で処分する。
- （2）排水不良は本病の発病を助長するので、明渠等によりほ場排水対策を徹底する。
- （3）過剰な追肥は、過繁茂を招き葉が軟弱になり傷みやすく、本病の発生を助長するので

避ける。

- (4) 収穫は晴天時に行なうとともに鱗茎は十分に乾燥させてから収穫する。また、早期収穫は貯蔵腐敗を助長するため、適期収穫を行う。
- (5) 薬剤防除は、発病の有無にかかわらず、防除暦に従って必ず行う。特に本年産たまねぎの生育は旺盛であるので、たまねぎの生育に応じた水量とし、薬液が十分付着するように散布する。薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を守る。

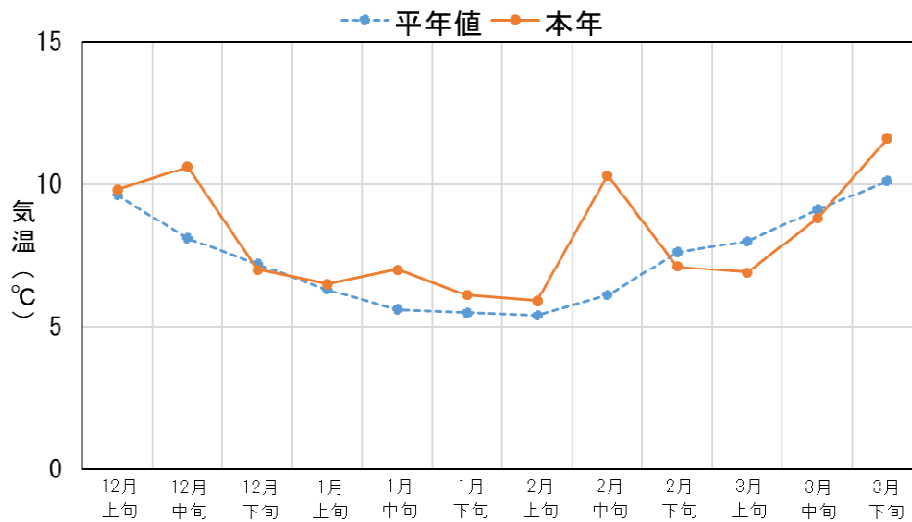


図1 日平均気温の推移
(南淡アメダス 2023.12~2024.3)

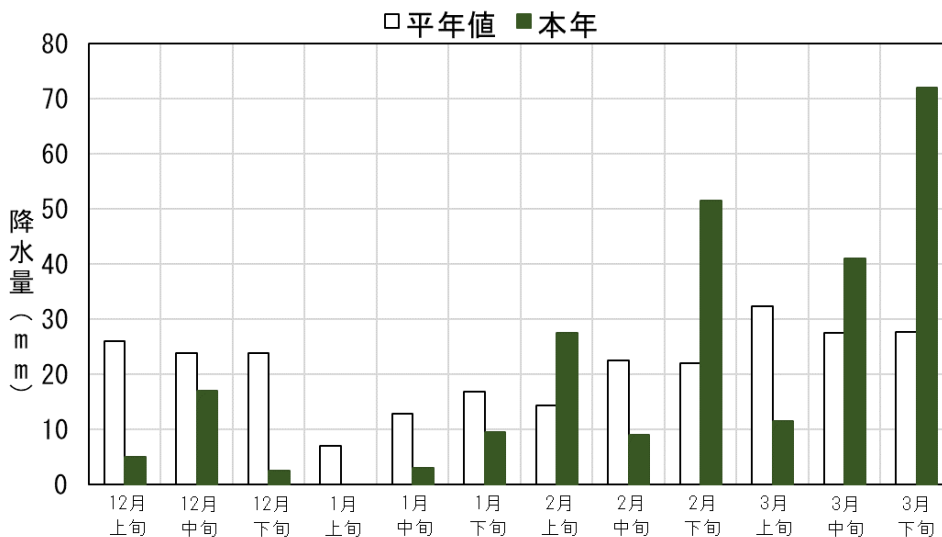


図2 旬ごとの降水量の推移
(南淡アメダス 2023.12~2024.3)



写真1 生育旺盛なたまねぎ
(4月4日の状況、年内定植)



写真2 軟弱徒長したたまねぎ
(4月10日の状況、年明け定植)



写真3 葉鞘部の腐敗症状

*兵庫県農薬情報システムは以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

*この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>

兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222